

行政や社協、企業、住民の協力をつなぎ、地域で“食のセーフティネット”を確立

【助成事業の概要】

ひとり親家庭や無年金の高齢者など、**生活困窮者への食料支援**を行うことを目的に、**フードバンク**を立ち上げ、**行政や社協と連携**し、生活困窮者へ食品を届けています。

また、フードバンクの取り組みを多くの方に知ってもらい、協力者を増やすための**広報活動**や、行政の窓口やスーパーに食品回収箱を設置し、家庭で食べきれない食品を寄付してもらう**食品寄付キャンペーン**（フードドライブ）を実施しています。



【助成事業の成果】

フードバンクによる継続的な「食」の支援に必要な食料を、多くの食品工場や企業、一般市民の方から**定期的に確保**できるようになりました。また、集めた食料を行政や社協と連携し、**生活困窮者へ確実に届ける仕組み**ができました。この仕組みにより**県内多くの自治体へ支援が広がっています**。

【ここが工夫のポイント☆】

特に**行政との協力で力を入れて取り組んだことにより「協働」力の強化につなげたこと**。



緊急一時保護（シェルター）の充実と生活支援

【助成事業の概要】

路上生活者、精神疾患や軽度の障害がある方などを対象に、**緊急一時保護（シェルター）**を提供し、**身の安全を確保**するとともに、**生活再建に向けた支援**を行っています。

また、シェルターが満室になり依頼に応えられないリスクに備え、他団体が保有する宿泊可能な施設を**サテライトシェルター**として確保しています。



【助成事業の成果】

シェルターの設置で、障害などにより**個別ケアが必要な方への支援**や地域で一人暮らしをする前に**ソーシャルスキルを身につける必要がある方などへの受け皿**ができました。

また、入所期間中に生活課題を自覚する方もおられ、**社会的なサービスにつながる機会を提供**することができました。



【ここが工夫のポイント☆】

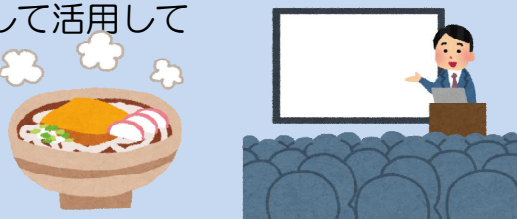
他団体との連携により、サテライトを設置することで対応力の強化を図ったこと。

引きこもり者及び長期不就労者を地域の特産品の開発を通して、就労へつなげる

【助成事業の概要】

引きこもり等の生活困窮者の力を地域活性化に活かすことを目的に、**引きこもり者及び長期不就労者と地域住民が一体**となり、特産品開発を行っています。

また、特産品の説明会や試食会を**就労訓練の場**として活用しています。



【助成事業の成果】

地域の新しい特産品である「うどん」の商品開発過程で、地域の人たちに関わってもらうことで、**引きこもり者が地域との関わりを持つことができ**、引きこもり者の中には**実際の就労に至る**ものがあり**社会復帰に結びついた**と同時に地域の特産品も開発することができました。

【ここが工夫のポイント☆】

本人の状況に応じた**就労メニュー**を、**地域の特産と結びつけて作ったこと**。



生活困窮者の自立を目指した支援、その定着を目指した継続的な支援

【助成事業の概要】

失業、健康上の問題、家庭問題等の様々な問題を抱えホームレス状態にある方々、ネットカフェ難民、路上生活に陥りそうな生活困窮の方々への支援を行うことを目的に、シェルターで衣食住を確保し、一人ひとりの抱える**福祉課題を整理**し、その解決に向けて連携団体と**住居の確保、生活支援、就労に向けた支援**を行っています。

また、月に1度皆で集まって夕食を食べる機会を設け、近況を報告し合いながら、**互いに困りごとを解決するための場の提供**を行っています。

【助成事業の成果】

生活困窮者へのシェルターでの住まいの提供による緊急時の対応だけではなく、福祉課題解決をしながら地域で生活できるよう、生活困窮者の状況に応じた**寄り添い支援が実現**しました。また、人との関わりがあまりなく、孤立していた生活困窮者が、定期的な集いの場に通うことで、**地域で新たな人との関係ができ**、その後の**地域生活の定着**につながることができました。

【ここが工夫のポイント☆】

自立に向けた寄り添い支援に加え、その後の**継続的な支援を行ったこと**。

